

2014 年度前期 工学部情報画像学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1U006001	計算機システム入門	2 年前期木曜 1 限	眞鍋 佳嗣	T1U 1
T1U007001	プログラムの設計と実現 I	2 年前期木曜 2 限	堀内 靖雄	T1U 2
T1U009001	回路理論 I	2 年前期水曜 1 限	関屋 大雄	T1U 3
T1U010001	プログラム演習	2 年前期金曜 3 限	森 康久仁	T1U 4
T1U010002	プログラム演習	2 年前期金曜 2 限	森 康久仁	T1U 5
T1U027001	情報理論 (情報画像)	3 年前期月曜 3 限	須鎗 弘樹	T1U 6
T1U030001	情報通信ネットワーク	3 年前期火曜 1 限	関屋 大雄	T1U 7
T1U033001	ヒューマンインタフェース	3 年前期火曜 2 限	黒岩 眞吾	T1U 8
T1U034001	コンピュータグラフィックス	3 年前期木曜 4 限	津村 徳道	T1U 9
T1U035001	デジタル信号処理	3 年前期月曜 2 限	川本 一彦	T1U 10
T1U038001	ソフトウェア設計論	3 年前期火曜 3 限	大澤 範高	T1U 11

授業科目名	: 計算機システム入門
担当教員	: 眞鍋 佳嗣
年次・開講時限:	2 年前期木曜 1 限
授業コード	: T1U006001
授業アンケート:	回答者数 55 人 / 受講者数 91 人 (回収率 60%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 54 件)

平均点が高く、学生に満足してもらえる授業が行えていると思う。但し、「3. どちらともいえない」と回答した学生が4人居るので、さらに授業内容および授業の進め方・教え方の工夫をし、さらに、学生に満足してもらえる授業にしたいと思う。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか？ (回答 54 件)

授業中に出席を兼ねた演習を行っており、レポートなどを出していないのもあり、授業時間外の予習復習の時間が少なくなっていると思われる。予習復習が必要になるような授業方法の検討をしたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

ほぼ予定通りの授業ができていますが、若干、前半が長くなり後半の説明が少なかったと反省している、このような点が満足度や理解度を少し下げているように思う。ただ、教科書や講義資料を配布し、主体的に勉強できるようにしている。いろいろなことに興味を持って、自ら学ぶ習慣を身につけて欲しいと思う。

3. その他のコメントや連絡事項

計算機の基礎となる内容なので、できるだけ分かりやすく、例題や演習問題を使って説明するように心がけているが、1年生後期の授業と一部重複するところもあり、もう少し内容を整理したいと思う。また、学生が計算機についてさらに興味を持って、自ら学ぶような工夫をもっと考えたい。

作成(者): 眞鍋佳嗣

授業科目名	: プログラムの設計と実現 I
担当教員	: 堀内 靖雄
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 2 限
授業コード	: T1U007001
授業アンケート	: 回答者数 48 人 / 受講者数 88 人 (回収率 55%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 47 件)

アンケート結果は 4.45 であり、学科平均の 4.33 を上回り、学生の満足度は高かったと言える。自由記述欄からは演習の難易度が適切であったという意見もあったが、簡単すぎて、ほとんど役に立たないという意見もいくつか寄せられた。ほとんどの学生が授業時間内に終わるように配慮した演習課題であるが、学生の実力向上のことも考慮し、難易度については来年度の検討課題としたい。ただし、高度な演習は「プログラム演習」に委ねることとなる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 48 件)

アンケート結果は 4.27 であり、学科平均の 4.05 を上回り、理解度は高かったと言える。ただし、C 言語の学習としては入門～初中級レベルにとどまっており、高学年になって、もう少し高度な技術レベルまで学べるようなカリキュラム編成を今後、検討していきたいと考えている。

Q5. 板書、OHP、スライドなどは、見やすかったですか？ (回答 46 件)

アンケート結果は 4.57 であり、学科平均の 4.73 を下回る結果となった。自由記述より、s スライドの文字が小さくて、読みにくかったようである。スライドの改善を検討したい。また、講義中は話に集中してもらうためにモニタの電源を切ってもらっているが、自分のモニタで講義資料を確認しながら受講したいという意見もあったため、良い解決策を検討したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義時間内で理解できるような内容としており、アンケート結果の理解度も高かったが、3. のコメントで示すように、テストの成績が芳しくない学生もいた。演習が簡単だったこともあり、不十分な理解のまま、講義を終えてしまった可能性が考えられる。プログラミングが苦手な学生の理解度のベースアップの方法を検討したい。

3. その他のコメントや連絡事項

期末テストの内容を見ると、100 点 5 名、90～99 点 18 名、80～89 点 24 名と半数程度はおおむね理解していたと言えるが、69 点以下の学生も 26 名おり、プログラミングの実力が不十分と考えられる学生もいた。テストがあまりできなかったと思う学生諸君は自分で復習や演習をして、実力を身につけて欲しい。プログラミングは情報系学科の必須能力となる。

作成 (者): 堀内靖雄

授業科目名	: 回路理論 I
担当教員	: 関屋 大雄
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 1 限
授業コード	: T1U009001
授業アンケート	: 回答者数 52 人 / 受講者数 94 人 (回収率 55%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 52 件)

今年から開講時限が変更となり、それまで行っていた「演習問題が解けるまで帰れない」制度の継続が困難となってしまった。それに対する次案を考えつかずに半期を終えてしまったのが反省点であり、来年は改善したい。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 51 件)

本講義では演習の時間質問するチャンスはいくらでもある。多くの学生から質問があったが、こちらから声をかけないといつまでも問題を解けない学生もいた。

今後なるべく積極的に自分から質問してほしいし、逆に困っている様子が見て取れた場合、こちらから話しかけることも継続していきたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

今年は講義時間が移動したこともあり、演習に関して大幅な変更を行った。このため、その講義時間中にやったことを理解する、という方針が変更となり、予習・復習の重要性が増している。

と言っても難しいことを要求しているつもりはなく、課した演習を自分の力で解くことを継続してもらえれば、本講義の理解度は大幅に上がるはずである。

質問にくる学生の数が年々減っており、その点は今後改善していきます。

3. その他のコメントや連絡事項

本講義は情報画像学科の「工学」の講義の入り口としての位置付けを強く持っている。そのため、講義は多少難解で、問題をこなさなければ理解できない点多々ある。その意味で他講義とくらべて少し敷居が高いと感じるかもしれない。

しかし、「回路は工学の言語」であり、情報画像の学生にとっても必須の知識であると信じている。本講義がエンジニアへの第一歩となることを願っている。

作成(者): 関屋大雄

授業科目名	: プログラム演習
担当教員	: 森 康久仁
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 3 限
授業コード	: T1U010001
授業アンケート	: 回答者数 23 人 / 受講者数 43 人 (回収率 53%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されていきましたか? (回答 18 件)

2 コマ開講の両方のアンケート結果を見てみても、「いいえ」「あまりそういえない」と回答した学生は 0 であった。計算機を用いた演習であり、一人で 40 人以上の学生を対応することが難しく、TA 2 名の確保が有効に働いていると考えられる。

Q19. 演習は対応する講義の進捗と適切に連動していましたか? (回答 18 件)

本演習は「プログラムの設計と実現 I」と連動して演習を行えるように、課題を作成している。2 コマ両方のアンケートの結果でもほとんどの学生が「はい」または「ややそういえる」と回答している (「どちらともいえない」が 2 人、「あまりそういえない」が 1 人)。今後も対応講義との連動を考えながら課題設定に試みたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

演習内でとった個別のアンケートの結果をみると、多くの学生が「課題の量が多く、難しい物が多かったが、ためになった」と感じているようだ。本アンケートでも多くの結果がそれを物語っていると思う。ただし、中には対応講義である「プログラムの設計と実現 I」と難易度に差がありすぎるとの意見も散見され、来年以降の課題としたい。

3. その他のコメントや連絡事項

プログラム言語の習得は「習うより慣れる」という側面が大きいので、継続してプログラムをする時間をとってもらいたいと思います。また、自分が疑問に思ったことは実際に試してみることが重要だと思います。

作成 (者): 森康久仁

授業科目名	: プログラム演習
担当教員	: 森 康久仁
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 2 限
授業コード	: T1U010002
授業アンケート	: 回答者数 25 人 / 受講者数 46 人 (回収率 54%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されていたか? (回答 18 件)

2 コマ開講の両方のアンケート結果を見ても、「いいえ」「あまりそういない」と回答した学生は 0 であった。計算機を用いた演習であり、一人で 40 人以上の学生を対応することが難しく、TA 2 名の確保が有効に働いていると考えられる。

Q19. 演習は対応する講義の進度と適切に連動していましたか? (回答 17 件)

本演習は「プログラムの設計と実現 I」と連動して演習を行えるように、課題を作成している。2 コマ両方のアンケートの結果でもほとんどの学生が「はい」または「ややそういえる」と回答している (「どちらともいえない」が 2 人、「あまりそういない」が 1 人)。今後も対応講義との連動を考えながら課題設定に試みたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

演習内でとった個別のアンケートの結果をみると、多くの学生が「課題の量が多く、難しい物が多かったが、ためになった」と感じているようだ。本アンケートでも多くの結果がそれを物語っていると思う。ただし、中には対応講義である「プログラムの設計と実現 I」と難易度に差がありすぎるとの意見も散見され、来年以降の課題としたい。

3. その他のコメントや連絡事項

プログラム言語の習得は「習うより慣れる」という側面が大きいので、継続してプログラムをする時間をとってもらいたいと思います。また、自分が疑問に思ったことは実際に試してみることが重要だと思います。

作成 (者): 森康久仁

授業科目名	: 情報理論 (情報画像)
担当教員	: 須鎗 弘樹
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1U027001
授業アンケート	: 回答者数 46 人 / 受講者数 83 人 (回収率 55%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 45 件)

学科全体平均 4.05 に対して 4.38 と良い結果であった。自由記述欄に、よく理解できた旨の記述が多く、現状のスタイルを踏襲していきたい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 45 件)

学科全体平均 4.33 に対して 4.53 と良い結果であった。自由記述欄に、よく理解できた旨の記述が多く、現状のスタイルを踏襲していきたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

Q10(宿題・レポート)とQ13(予習・復習)とQ14(質問)以外のすべての項目について、平均を上回る結果であった。この結果をふまえて、現状のスタイルを踏襲しながら、レポートなどの予習復習の機会と質問できる機会をさらに増やすような工夫をしていきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

宿題・レポートなど、受講生からのフィードバックの機会を増やすように努めたい。また、自由記述に、「講義資料がわかりやすいが、もう少し考える余地を残して欲しかった」とのからの受講生のコメントがあり、考慮していきたい。

作成(者): 須鎗弘樹

授業科目名	: 情報通信ネットワーク
担当教員	: 関屋 大雄
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 1 限
授業コード	: T1U030001
授業アンケート	: 回答者数 49 人 / 受講者数 81 人 (回収率 60%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 46 件)

今年から本講義を担当し、試行錯誤しながら講義を進めていった。本評価がもっとも重要な項目であると考えており、この回答がもっとよくなるよう、さらなる講義内容の改良を目指したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本年度から本講義を担当し、さまざまな面で反省するところがある。今年は特に情報画像実験 II との関連性を強く意識し、本講義内容が実験 II の助けになるよう、また、実験 II の内容が本講義の理解の助けになるような講義内容を考慮した。

一方、大きな反省として、実験を行っていない他学科の受講生には一部理解が難しいところがあったと思う。来年度はそのバランスを改善し、より良い授業を目指していきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

ネットワークの仕組みを知ることに限っては、難しい数学は必要なく、覚えるだけであれば市販の本を読めば十分である。したがって、本講義では「なぜそのような仕組みを作る必要があるのか」という一歩踏み込んだ内容を理解してほしいと考えている。

表面上の理解は簡単だが、本質の理解は難しい、というのが情報通信ネットワークであり、本講義を本質を理解するための第一歩としてほしい。

作成 (者): 関屋大雄

授業科目名	: ヒューマンインタフェース
担当教員	: 黒岩 眞吾
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1U033001
授業アンケート	: 回答者数 8 人 / 受講者数 12 人 (回収率 67%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 8 件)

5 点満点で平均 4.5 と高い評価であった。学生が自らテーマを探し、調査したうえで、その改良点を考案する、そして、それを発表し他の学生がコメントをするという授業スタイルが高い評価の理由であると考えられる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 8 件)

4.25 と合格点と考えられる。講義で身につけた内容を、自ら選んだテーマで実践することで、理解が深まっていると考えられる。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。 (回答 1 件)

以下のようなコメントを頂きました。

・レポートは大変でしたかともためになる授業でした。身の回りのもののインターフェイスに気づくことができるようになりました。

・第三者からの意見がしっかり聞けたこと今までは自分のプレゼンについて他人がどう思ったか直接聞いたことはなかったから

・身近な例から、ヒューマンインターフェースについて知ることができた。また、自分で改善案を考えて発表することで理解がさらに深まった

2. 授業アンケート全体に対するコメント

身近なモノを改めて見つめ直すことを通じて、ヒューマンインタフェースに関する知識だけでなく、工学者としてのモノの見方が身につけていることがレポートや発表から読み取ることができました。

3. その他のコメントや連絡事項

学生さんの発表は大変興味深い内容で、教員としても気づかされることが多く、講師の私にとっても非常に楽しく、また学ぶことの多い授業です。

作成 (者): 黒岩眞吾

授業科目名	: コンピュータグラフィックス
担当教員	: 津村 徳道
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 4 限
授業コード	: T1U034001
授業アンケート	: 回答者数 54 人 / 受講者数 92 人 (回収率 59%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 51 件)

高く評価いただき幸いです.

Q11. 授業内容の量を考慮すると, 進度は適切でしたか? (回答 52 件)

高く評価いただき幸いです.

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 50 件)

満足いただき幸いです.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

実例をあげた授業は学生さんが満足されているようですね. これから, 実例と地味な数学をリンクさせて, 興味をもって地味な数学に取り組めるようにしたいと思います.

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 津村徳道

授業科目名	: デジタル信号処理
担当教員	: 川本 一彦
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 2 限
授業コード	: T1U035001
授業アンケート	: 回答者数 48 人 / 受講者数 85 人 (回収率 56%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 43 件)

昨年度に比べて評価点が大幅に上昇しているが、これは本年度から教科書を指定するようになったためと思われる。次年度も教科書とオリジナル補助教材を用いて、授業外学習も含めて理解が進むように努めたい。

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 44 件)

昨年度に比べて評価点が上昇しているが、教科書をベースに宿題を課したことから、ノートだけでなく教材も授業外学習に役に立ったためと思われる。次年度もこのような配慮をしたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

アンケート項目の多くで昨年度より評価点が上昇しているが、宿題や試験の結果を見ると、一部の受講生は学習到達度が十分とはいえないとも考えています。教科書やオリジナル教材を準備することは、受講生から見ると一定の評価が得られることも今回のアンケート結果で分かったため、次年度以降もそのような準備をしたうえで授業に臨みたいと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

分からない点があれば授業後などに質問にきてほしいと思っています。質問にくる受講生は試験の結果もよい傾向がはっきりと出ています。

作成(者): 川本一彦

授業科目名	: ソフトウェア設計論
担当教員	: 大澤 範高
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 3 限
授業コード	: T1U038001
授業アンケート	: 回答者数 45 人 / 受講者数 84 人 (回収率 54%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 45 件)

ほぼ毎回の講義の時間中に実施する演習のために、初回および試験を除いて計算機室で講義を実施したが、アンケートでは学科平均を若干上回る結果となっており、おおむね問題がないようである。来年度以降も同じ形式での講義を行うことを計画している。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 45 件)

この項目の評価は平均を下回っていた。今年度から講義内容を一部変更してより高度な内容や昨年度の講義に含まれなかった新しい内容も解説するようにしたが、やや駆け足になった部分があったかもしれない。来年度は講義内容を再度見直し、駆け足と感じられないような内容にして、理解を深められるようにしていきたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

今回のアンケートでは授業の進度に関連した項目の評価が残念ながら学科の平均を下回っていた。それ以外は概ね学科平均と同程度であった。

情報処理技術者試験のソフトウェアに関連した領域で、他の講義では扱われていない内容やより高度な内容を今年度からより多く取り込むようにしたが、講義の回数を考えるとやや内容が過多になっていたようである。上記のように来年度は内容を今年度よりも少し減らす方向で考えたい。

ただ、情報処理技術者試験の基本情報処理技術者試験で問われる内容は基礎的な知識であり、学部卒業までには基本情報処理技術者試験で問われる内容について十分な理解を得るようにして欲しいと考えている。

3. その他のコメントや連絡事項

今年度の途中から出席確認の代わりに、キーの押下回数などを記録するソフトウェアを導入し、講義時間中はそれを起動してもらい、(講義時間中の) 演習後にその記録を提出してもらうようにした。来年度も同様の方法を採用する予定である。

作成 (者): 大澤 範高